

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171500040		
法人名	社会福祉法人 萱垣会		
事業所名	中津川市グループホームまごころ		
所在地	岐阜県中津川市神坂3835-204		
自己評価作成日	平成28年8月1日	評価結果市町村受理日	平成28年9月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=trus&amp;ligyosvoCd=2171500040-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=trus&amp;ligyosvoCd=2171500040-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成28年8月29日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様一人ひとりが持っている力を発揮し、やりがいを持てるようにし、まごころでの生活の中で、利用者様同士の関わりを通して、穏やかな時間が送れるように支援しています。</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は恵那山麓に位置し、周辺は多くの樹木が茂り、自然豊かな環境にある。春には、山菜が豊富に採れ、食卓に色彩りを添えている。併設の特別養護老人ホーム前には、天台宗の祖「最澄」の等身大の銅像があり、利用者と職員共々、精神的な象徴となっている。市の中心から離れた過疎区域であるが、地域住民やボランティア、子どもたちとの交流を盛んに行い、積極的な事業運営を行っている。管理者・職員は、利用者一人ひとりの持てる力を支え、楽しみと生きがいを見つけられるよう、信頼関係を築きながら、まごころをこめて支援をしている。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念として「寄り添い、見守り、共に暮らす」を掲げ、毎朝職員で唱和しサービスに繋げている。	理念は、利用者の暮らしを支えるための基本に沿っている。それらを、具体的な行動計画にまとめ、職員間で共有をしている。利用者の「できる力」を引き出し、笑顔で寄り添い、安心な暮らしにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの協力も得られており、地域の行事がある時には、いつも声をかけて頂いており、積極的に参加している。	地域のボランティアと、様々な分野で交流し、支援も得ている。園児や小学生との交流、中学生の体験学習の受け入れも継続している。また、地域の行事へ出かけたり、事業所のイベントには、地域の人たちを招いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族や地域の方に運営推進会議等を通じて理解して頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や、法人独自の事業(サービス評価、満足度調査)職員研修、外部評価の改善点への取り組みなど伝え意見を頂きサービスに繋げている。	会議では、サービスの評価や満足度調査、災害対策などの結果を報告し、課題を話し合っている。また、事業所内外の安全対策や環境整備、ボランティアとの連携などで意見を交わし、改善と運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常的に市町村の担当者とのやりとりがあり、運営推進会議等も含めて連絡、報告、相談をしており、協力関係を築くよう取り組んでいる。	隔月に開催する運営推進会議で、市の担当者から必要な情報を得ている。事業所からは、事故や入院、料金改定、制度上の課題を相談し、助言を得ている。市の介護相談員は、隔月に訪れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で身体拘束の理解のため(管理者より資料の配布あり)職員会にて読み合わせをし、拘束をしない介護に努めている。	職員は、身体拘束や虐待について、具体的な行為を学び、弊害を認識し拘束をしないケアに取り組んでいる。また、言葉による行動制限を行っていないか、職員間で確認し合い、周知徹底をしている。また、利用者が混乱を招くことのないように、優しく寄り添い、さりげなく見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設け虐待防止の勉強会を事業所内にて行い虐待防止に努めている。		

岐阜県 中津川グループホームまごころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加して職員会等で復命したり、ご家族にも運営推進会議等で内容を報告したり、講演会への参加を促したりして、必要時には相談にのって関係者につなげるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際、家族様に契約の締結や解約の説明をし同意を頂き、質問があれば十分理解し納得が得られる様努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス評価事業や満足度調査、外部評価のアンケート、家族会、茶話会(毎月、利用者の意向聞く会)通し出した意見を、所長、職員全体で検討し運営推進会議等で報告している。	毎月茶話会を設け、利用者の思いを聴き取っている。家族とは、面談の機会が多く、気楽に話し合いを行っている。また、アンケート調査のデータからも家族の意見等を把握している。かかりつけ医への受診や部屋の環境についての意見があり、早急に対応を行ない、改善をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや毎月の職員会にて職員の意見や提案を出し運営に反映している。	管理者は、会議や日常勤務の中で、利用者の事故防止や床ずれ予防、嚥下力の向上について、職員の意見や提案を聴き、改善点を話し合っている。また、職場環境の整備や福利厚生についても意見を交わし、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働けるよう年度初めに目標を作成し、職員個々の勤務状況を把握し働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人の力量に合わせて新人研修、法人内研修、資格取得の機会を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム部会に参加したり研修会に参加し、情報交換やサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまでに本人や家族様の意見を伺う機会を設けるようにしており、本人の気持ちを受けとめるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様と話をする時間を十分に設け、不安な事や要望など家族様の気持ちを受けとめるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族様から話を伺い初期ケアプランを作成、サービス内容等 説明し、皆さんとの生活に馴染んで頂けるよう支援をすすめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様の気持ちや不安を受けとめ、少しでも安心して暮らせるような環境づくりを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や運営推進会議で意見交換をしたり、普段の利用者様の様子を伝え情報を共有し、利用者様を支えていくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時より続けていた集まりに参加したり、馴染みの方の面会や訪問もあり、ご本人の関係の継続に努めています。	地元高齢者の集いに出かけたり、母体の介護老人福祉施設との交流を継続している。定期的に訪れる移動販売車や美容師、介護相談員、ボランティアの人たちとも馴染みである。懐かしい場所や買い物へは、家族と協力して支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の関係、個々の性格を理解する様に努め、お一人お一人の出来る力を発揮し、協力できる場面作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も何かあれば相談に応じる旨を伝えており、気軽に施設へ立ち寄って頂けるよう声掛けを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月、茶話会を行い意向を伺ったり、困難な場合はご家族に相談したり、その時々でご本人の意向を把握する様努めている。	職員は、日常の会話やケアの中で、利用者の意外性に気づくこともあり、毎月の茶話会で、問いかけに工夫しながら、思いを引き出している。困難な人は、つぶやきや動作を観察し、本人の思いに添った暮らし方ができるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に今までの生活歴や生活習慣、入所までの利用サービスの経過を、ご家族やケアマネ等に伺い、職員で共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日常の様子を把握し、ご本人ができる事、気持ちや心身状態の変化に注意し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子を把握し、ご本人が必要としている事は何か考え、ご家族と意見交換し、現状に即したケアプランの作成に努めている。	本人・家族、関係者の意向を把握し、介護計画の作成を行っている。安全な行動を見守りながら、利用者の自立を支え、落ち着いた生活が継続できるよう、モニタリングを行なっている。また、必要に応じて、個別サービス実施表に新たなニーズを加え、支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のサービス計画実施の記録を毎日記入し職員間で共有し、一月(状態の変化時)の評価を行い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、ニーズが生まれた時には、家族、管理者、その他、その時関係する方達の意見を聞き、相談しながらの対応に努めている。		

岐阜県 中津川グループホームまごころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会や民生委員の慰問、ボランティアの協力を得ながら、楽しみのある暮らしを支援するよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時の係りつけ医との関係を大切にしながら、施設の協力医の話をし、家族の意見を聞き適切な医療を受けられる様に努めている。	個々に、かかりつけ医を継続し、家族が受診同行しているが、家族の都合によっては、職員が柔軟に対応を行なっている。協力医の往診は定期にあり、希望者は、協力医に変更している。急変時は、総合病院とも連携し、適切な医療を受けられる体制である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する特養「広済寮」の看護師に相談したり状態を見て頂き、家族に相談し適切な対応に当たれるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入院時には家族はもちろん、担当医の話や病院の相談員との連携を図っており、入院中の様子を把握し、出来るだけ早く退院ができるよう対応に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた姉妹施設の看取りの指針を参考にしながら、早くから家族、主治医、医療機関などの協力体制の確認、支援の方向性について話をしている。	重度化や終末期の対応は、段階的に主治医や家族、関係者で話し合い、方針を共有している。利用者の状態に応じて、医療機関や介護老人福祉施設への移動を含めて、本人にとって、最善の方法を選択できるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の研修年を法人内で定期的で開催しており、出来る限り多くの職員が参加できるようにしており、参加出来なかった職員には復命、資料を見てもらい緊急時の対応にあたるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画に基づき、2カ月に1回の非常災害訓練を繰り返し行っている。夜間訓練実施しており、地元消防団、地域の方との合同訓練も定期的に行い全職員が身につけられるようにしている。	法人合同で、災害訓練を実施している。また、2ヶ月毎に、夜間を想定した自主訓練を行い、初期動作、避難経路を確認し、災害時の実践力を身につけている。訓練には、地元消防団や地域住民の参加もあり、協力体制を築いている。最低限必要な備蓄も確保をしている。	市の全域は、地震断層帯にあることを踏まえ、棚の上の備品や展示物など、落下・転倒の対策に期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中で、尊厳やプライバシーを守り、個々を重んじ、言葉使いに気をつけながら支援している。毎月の職員会にて繰り返し管理者からの伝達もある。	利用者の言葉を否定することなく、一人ひとりの思いを受け入れ、自尊心を損ねない態度や言葉かけに努めている。また、入浴や排泄時の介助時、居室への入室の際も、プライバシーに配慮しながら対応を行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎月1回、本人の思いや意見を聞けるよう「まごころ茶話会」を開催。その思いに添って毎月の行事に取り入れており、その場面場面で自己決定できるよう声掛けしながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定を心懸け、利用者さんの気持ちをゆっくり聞けるよう寄り添うように支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分での衣類の選択(ご自分で出来る方)身だしなみとして整髪、お化粧の声掛け、特に外出時や敬老会などには職員も手伝って気分よく参加できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの出来る事を大切に、又、「此処に仕事に来ている」と言われる方の思いを大切にしながら利用者と一緒に食事の準備や片付けを心かけ、楽しく食事ができるよう支援している。	出来る限り、利用者が好む食事を提供できるよう努め、器や品数、季節感のある彩りにも配慮をしている。利用者は、食事の準備や片づけを進んで担い、職員も一緒に、同じものを食べながら、和やかな時間を共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病院や他の施設の献立(栄養士が作った)を参考にしながら利用者と一緒に考えている。水分量については特に夏場は毎日の課題にし水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの習慣付けに努めている。一人ひとりの力に応じての支援を行っている。義歯の方には洗浄剤も使用しており薬剤の管理を職員がしている。		

岐阜県 中津川グループホームまごころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	法人全体で「オムツ外し」に取り組んでいる。「排泄はトイレ」を職員間にて徹底しており、トイレにての排泄が理解できない方には気長に対応をするようにしている。	前年度から「おむつ外し作戦」と名づけ、成果を上げている。「排泄はトイレで」を基本に、さりげない声かけと誘導で、トイレでの排泄を促し、気長に対応している。夜間のみ、個々の状態に合わせた個別支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘ぎみの方には主治医に相談などを行い薬の処方をして頂いているが薬にたよらないよう、食事の内容を見直したり、体操を取り入れたり、水分を多く摂ってもらい、便通を促すよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の意思を尊重して入浴してもらっている。今日はいいと言われれば翌日にしたり、入浴剤や声掛けによって、入浴したいと思える工夫をしている。	入浴は、規定回数にこだわらず、希望があれば柔軟に応じている。汚れた場合は、さりげなく対処をし、重度者でも浴槽に入れるよう工夫している。嫌がる人は、タイミングをずらしたり、声かけに配慮し、楽しく入浴ができるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の思いや生活パターンを大切に、眠れない時は飲み物や軽食をすすめ、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で服薬の確認ができるようにして、薬の変更等があれば職員会で共有し、様子の確認し、変化がある時は医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑が好きな方には、野菜作りの指導をお願いしたり、料理の味付けや調理を一緒に行ったり、買い物に同行し、旬の食材を選んだりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望を伺い、散歩や畑や買い物、併設の特養での行事に参加している。ドライブの時には地域のボランティアの協力を得て出掛けている。	日々、周辺の森の小道を散歩したり、畑の様子を見に行くなどし、木々の色合いからも季節を感じている。併設の特別養護老人ホームに気楽に行き来し、買い物や外食の機会も多い。普段行けない所へは、ボランティアや家族の協力を得ている。	



岐阜県 中津川グループホームまごころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内では金庫にて預かっている。買い物外出時にはご本人に渡して、お金を自分の意思で使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙はなかなかかけないので、職員と一緒に書いて対応しており、電話はご本人の希望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	春には花桃が咲き、部屋の中は花桃色。桜が咲くと桜色。秋には紅葉の色。四季折々の感じて頂ける事を大切にしており、共用の空間については、利用者が混乱しないように、わかりやすい表示をしており、又、個々に居室等分かりやすいように工夫している。	玄関には、数体の仏像が置いてある。共用の空間は木の温もりがあり、天井が高く、明るく広い。窓越しに樹木が見え、四季を感じる事ができ、対面式キッチンからは料理の匂いが漂い、生活感がある。壁には、はり絵や絵画、記念の写真を掲示し、随所に季節の花を飾った居心地のよい空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に居室があり、居室ですぐず時間も大切に、見守りしながら必要に応じて声掛けをしている。食堂や居間での座る位置についても関係性を考えて、その都度配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた家のような雰囲気ができるように、使い慣れたタンスやテーブル座イス等、居室に持ってきてもらい、在宅時のような雰囲気の中で生活できるよう工夫している。家族の写真や飾りをつけて、家族を感じられるよう工夫している。	居室には、ベッド、洗面台、収納棚、床暖房を設置している。使い慣れたものを自由に持ち込み、好みに配置をし、自作の俳句や家族の写真を飾っている。表札は、分かりやすい字体で書かれ、利用者は自分の部屋として認識している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は見通しが良く、居室やトイレも分かりやすくなっている。洗濯たたみや掃除、食事作り等、一人一人の力や役割が発揮できるよう支援している。		